

令和4年度

大松小学校 「学力向上実行プラン」

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びを実現する子どもの育成

学力向上検討委員会構成

校長

佐川 知徳

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律を身に付け、当該学年の基礎的・基本的な知識・技能を概ね身に付けることができる。 ●当該学年の基礎的・基本的な知識・技能の習得に個人差がある。文章問題、文章表記、言語力を要する問題に課題がある。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。(児童全体の7割以上) ・相手の話を最後まで聞くことができる。	・板書や説明を工夫した丁寧な指導。 ・ヒントカードや具体物の活用。 ・タブレットの有効活用。 ・朝活で学習の習熟を図る。 ・必要に応じて個別指導をする。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自己表現や思考の言語化が豊かな児童により、授業が活発化している。 ●自分の考えを表現することが苦手な児童がいる。文章題の内容を理解し、正答を表現することに課題がある。	・自分の考えを自信をもって豊かに表現することができる。 ・文章題を理解し、正答まで導き、表現することができる。	・ペア・グループ・全体など表現する機会の充実。 ・挙手することで意思表示をさせる。 ・表現方法を表示して共有する。 ・教科書以外にもスキルなど問題量を確保する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や家庭学習に真面目に取り組む児童が多い。 ●自ら課題を見つけて取り組むことに課題がある。	・自ら進んで課題を見つけることができる。 ・集中して自力解決に向けて取り組むことができる。	・児童の実態に応じた授業展開。 ・関心を高める導入の工夫。 ・自ら課題を見つける場面を設定する。 ・学年便り等で家庭との連携を図る。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

